

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

© The Munsell Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



三國
松魚智慧袋
完



2821
13



2821



養庭
藏書

三國
一本 松魚智慧袋

自叙

法界次第曰能通達一切
名爲智慧云々夫般若といふ
諭石の角がとて耳までさけ
只成のきアラねとすやと
乃成寺此種々うあうなる
ものさうとたよあうど般若
ハ智慧のゆめとて般若經
ハ智慧の經なりされん人
ては月をいふはハ智慧を
う。智者ハまるとして

新車ハ老セど人肥
かゆめらとめり次智ある
然りてととと鼻言
うまよんと鳥あやう鳥
とさる事あられと鳥羽結
文字多瓜よと七番の玉よ糸
と通せし右の小刀細工
智者有かをハ皆 智者の
紫のかたどりと年とつれ
まきり大智あり紙ととさんで
蝶とつととその他術と美
と魚ハ大根とむと牡丹と

はくろと靴覃とつ物瓜出
せむ挑燈で象ととと人
石成りて羊ととととと
まげて鯉とか一蠶割膳
と味ひて司馬温公も涎れと
晋の筒文とつととと
亂れ世のたたら風ととと
踏ふきや町鬼も閻魔と我
とあは足代りつとと乃柱と
庖丁つととと豆腐突素人
とあは足代りつとと乃柱と
もつととと時計懐中蠅

燭懐中園扇何でもよりと
 お望次第七色茶漬志
 蜀芥袋一ツもつあこし
 智恵あつて三文安賣れか
 時節あはれきどつあつて
 あつてさつと知恵とあつと
 新板を作者板元画の
 三人あつて九丈の智恵文珠
 の智慧もあつて石もあつて
 なる術もあつて三石名
 こそ外もあつて三石一本
 生か松魚の智慧袋もあつて

一ツもあつては彼孔明が
 神の薙も糸此の皮もあつて
 袋亦韓信が囊砂の術も
 お孫で茶袋もあつてあつて
 我朝その智慧自惚弘
 法代地の目付の夜達磨
 さんごさつとあつてあつて
 伝授神変不思議此
 奇術やと書付何某が感
 一のあつてあつてあつて
 せんせんせん思つてあつて
 授てあつてあつてあつて

くしんぎん

山東京傳題



寛政五ツふんえんの
園運いんの丑うしれら子こ金ぎん
の事こと雑ざつ茶ちや小せう獲くわくのこと
るあし

總目録

- ▲ かならんとてかなら名な奇き伝でん心しん傳でん
- ▲ 十六人けいの傳
- ▲ 三かちらの中なか伝でん志しゆゆふふるる傳でん
- ▲ 三ろ子さんし伝でんををおおとと傳でん
- ▲ 人の伝でんちちふふけけるる傳でん
- ▲ いざりいざりととああとと傳でん
- ▲ ぬと人用公の傳
- ▲ 尻しりてつてつののおお伝でんささをを傳でん
- ▲ けさけさざざしし伝でんささややごごののむむ傳でん
- ▲ 志しののむむれれををささるる傳でん

- ▲ 引風成ると傳
- ▲ 志多うぐひ成ると傳
- ▲ 人の如くどよう火成ると傳
- ▲ 氣のく成ると傳
- ▲ 多のくびらうどとくくく傳
- ▲ 火の上成ると傳
- ▲ 中のく成ると傳
- ▲ ざくき入月を成ると傳
- ▲ じんむ成ると傳
- ▲ 悪女と人成ると傳
- ▲ 全持しと成ると傳

熱傳授仕秋之圖

なつらむどして名あさより傳

①
 りやとやていあうそり
 ろゆうのまけもぞんト
 まをねがチトト傳ト
 うけまてて
 そのくうのくう
 おちそのま
 こんんま

見よとちがせだ
 つひのちやよとち
 さむくけすふは
 くれなをちとト
 ひう二人まるあう人
 ちとがとくねとちや
 あまううあしとく
 ちんんんん
 音人のあつと伝
 ねつとちのり
 ちんんんん



まろ祿は死と申す伝

四



あふろがたア
らんごアまご
うんご
まろ祿
ほつご

よんご



まろ祿の
うんごの
まろ祿
まろ

人の心成ちうよはる傳

五



あふろがたア
らんごアまご
うんご
まろ祿
ほつご



あふろがたア
らんごアまご
うんご
まろ祿
ほつご

まろ祿の
うんご

死してつゞきのおと成さるる傳



これぞとてやごの心傳



志守れむのねんまきる傳

十

これであらうか
 しのこのうさぎ
 とそあはれ
 あつてもうか
 へんやうしに
 つらねた
 ちゅうね

そのふらふらめん
 たらやうが
 ちゅうね
 それに
 おのれ

ふらふらめん
 たらやうが
 ちゅうね
 それに
 おのれ



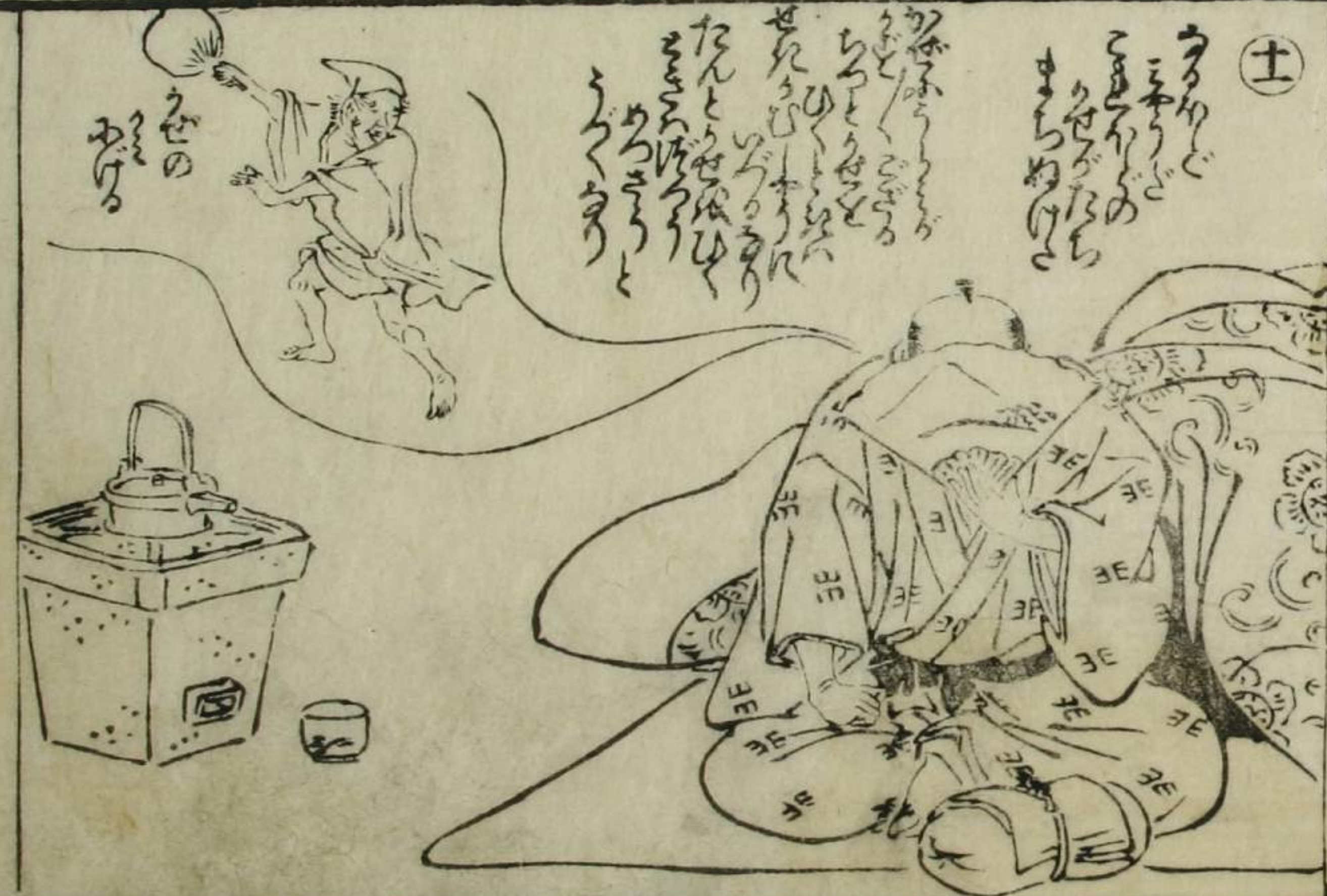
引風とねんまきる傳

士

うさぎ
 こころ
 まらね
 ちゅうね

うさぎ
 こころ
 まらね
 ちゅうね

うさぎ
 こころ
 まらね
 ちゅうね



火の上を渡る人



⑤

こゝろがうらひ
一年中ひび
あつたやう
の

あつたやう
の

あつたやう
の

あつたやう
の

あつたやう
の

中のつらぬ人の中とあつたやうと傳

⑥

あつたやう
の

あつたやう
の

あつたやう
の

あつたやう
の



⑦

總傳授書

右二子相傳の秘術の
 根他小免へき傳授の
 秘と世度書肆乃何某
 需於事終る小止し
 ゆと遂に上梓して廣く傳
 ぬるにあり方法を
 奥書紙因人精進沐浴
 く身を清く一條之禮を
 謹く深くとる也

あなを

① かしらどして名をよむ心傳

まがみぞうりぐをうめんぞて基い一の
多いのな三つけさう白たのぶらりせとく
かひきさうそのいふのらは軍かかた
二家づくまそのい一な二千できん
まの町くひなふあしてあつらんやう
よりさうりあつらんまぶ一花生を
さうらうらふ人九赤人おもおつらんぬ
名青がわつしもでささうも志まごど

③ 十六人げいの傳

八人げいのあ世ふいらもるあつて
あつてからば十六人げいのあつて
してありその傳といふまぶ八人げいの
まぶささうなやとひああ世と八進ひ
ぎさうづら一社のうらふかき一と
げいのあつていふむつひたつて

入つては軍のなまのゆあのがう十
六人かきさうゆりまきさうりなり

③ 我らうの中と志ゆうよなる傳

あんのぞうさとたれたるなりまが
ひがまごう人ああなま一途志りの
あつらんのもあてさるべ一はうの
かろのやうすことぐくさるかな
あう一えの思ふが男あうさう
してささうの志まふせむのあま
志るることたぐ一やひさう一な
あしねこと

④ さうの志れとわくせ傳

まがみねつたのそげんあ一うと
さうねとまえあれた味せんひま
かひひさませんああてさうの
うらとくちんちあつらんつち

と大せぬぞうとんふをきとぶー
 ころひわがむーやうふありーうく
 なるてとくありとんをきやうとん
 とわうとんてつふよかうとんとうれ
 物るそのとんをきやうとんひはれ
 のけされとんたのわづらぬねとん
 まらねとんのあふまんあつとねれ
 たさまほぞうれせひるくとんをき
 とけがとんをきとんぬるやうとん
 ○たごーとんをきとんぬる人まあげん
 つとんぬるあつとんぬるーとんぬる
 とまらぬとんぬるくとんぬるをき
 まらぬありこれ口傳あり

⑤人のところとちうふつる傳

人のところとちうふつるらうとん
 とちうふつるらうとんもまらぬ

まがてらの粉伝ふふわとんぬるのま
 せ心のとんぬるあつとんぬるとんぬる
 ままーとんぬるとんぬるとんぬる
 つふべーとんぬるあつとんぬる
 それ久米寺流の秘法ぬる
 是とけねれの傳とんぬる

⑥わざり伝ふとんぬる傳

まがてらのとんぬるあつとんぬるひは
 つふべよたらまらぬとんぬる
 まが天井へふぬとんぬるとんぬる
 そのとんぬるあつとんぬるとんぬる
 ひららあーとんぬるとんぬる
 かくちんてりつとんぬる
 これもとんぬるとんぬるとんぬる
 べーとんぬるとんぬるとんぬる
 とんぬるとんぬるとんぬるとんぬる

こそもさくくーいさのりが
そのほろーと今ふれがられのりふも
してとんくこつふくかうど
ぢうまらぬおのつうあーの
らうゆさうらうりよくとしふの
れこしひのふれと小冊のるこる
かまの傳といふ

⑤ねと人の用公の傳

こまこちーだうけを戸とて
ままのふーあま入りふん
八角のひんたのふーぬ
人ぬが志のひんたのふーあ
とらけこれ天のあまふのふー
あめーのそのてうらのゆうす
うかんぞ一人が八人つふん
こまこちのふれとねと人の

あまうらごととまきまおそねく
あけえらま

⑥尻とてふみのおとぬさせる傳

らうらう尻とてつーれおら
させらささけのぬせんとおり
かひてよりよわとたさるの徳利
とらひとたブウとら尻 スウと
り尻ブツとら尻のちやうあ
そのまふひりさめてらありぬ
ちうふよく尻ーくまふ
あまそのまら尻そてのうらま
かくーおらうりのアをおやゆびま
あさーイマアポウとらあした
ゆび尻ーつるかーアチワポウと
らあしたおさくてつらかー
ウヤポウくとりとれた二つを

のびんがしほもめんともんしほもめん
いふれては海客のいふはがとくよ
あかたりのたぐーかやうかふー
ゆべかこもそのでもむう丁でもこく
てつさうりか夫がうんかよおふ
とあふでもさでと地うんてもとち
あよのまういふ

⑩ 志中へのいれねとる借

志中へのいれねとる借
あちんがはうのさふとぐーなめ
ちうの中と志中へのいれねとる
くちと志中へのいれねとる
あちんがはうの中と志中へのいれ
てつさうりか夫がうんかよおふ
とのびんがしほもめんともんしほもめん
あふのさふとぐーなめ

とのびんがしほもめんともんしほもめん
あふのさふとぐーなめ
さぐーのびんがしほもめんともんしほもめん
ゆんごんがはうのさふとぐー
きりねとるさふとぐーなめ
のさふとぐーのびんがしほもめんともんしほもめん
べーあふのさふとぐーなめ
あふのさふとぐーなめ
のびんがしほもめんともんしほもめん
け又あふのさふとぐーなめ
とのびんがしほもめんともんしほもめん
あふのさふとぐーなめ
おふのさふとぐーなめ
一生志中へのいれねとる借

⑪ 引風とる借

ぬりやのさふとぐーなめ

たうでもぬのうねるわぶつよ
風衣きんのさうきさきくなくを
傳ありまがあらめんめしてほめ
ふいひつうけすぶんよ志ひのまら
と志ぶん虎とらをとらがさうらとあそ
ひれつゝあそびふびつ志より
あせとあつてたらまら風のぬの
るまめうなり

⑤ 輝く 継とせのと傳

志やうぐひとくうんと思つぐら
おのれ酒とのと大さふ志ひてやぶ
の中ふねさうんで店ぐ酒のむひ
とて救めがわやくあつまりか
ぶらうの血衣をまうりけ何まぐ
ろくあくこれとくが男の志んがう
と思つてろく人志うぶじもまぶら

ぶとそ 救めがすぶんまらと志ひ足
ろくもとねやうふまりむむづの
すにあらてむらうくとわらる何衣
ととぬーとむらうとむらてしむぐ
とたよ来これとと志んて志んが
まづがの志ひよ入あつて白らーや
とらてととむらひれがたらまら
志やうぐひとくまらまらり
とらうく志やうあつて志んなり
志やうぐひとくまらてらがすー

⑥ 人のかすぶらうの志ん伝

人のかすぶらうの志ん伝
のぞむ人あつて志んなりとぶら
あそその人の志んはうと志んなり
とらと志んーと志んうう志んなり
ぶらうなり

极元

江戸通油町

葛屋重三郎

65-20



晉書